教　授　　**鉄野　昌弘**　　TETSUNO,　Masahiro

1.　略歴

1983年3月	東京大学文学部国文学専修課程卒業
1983年4月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程入学
1986年3月	同　修了
1986年4月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程進学
1990年3月	同　単位取得退学
1990年4月	帝塚山学院大学文学部専任講師
1994年4月	帝塚山学院大学文学部助教授
1995年4月	東京女子大学文理学部助教授
2003年4月	東京女子大学文理学部教授
2007年12月	東京大学大学院人文科学研究科 国語国文学専門課程 博士（文学）学位取得
2009年4月	東京女子大学現代教養学部教授（改組による学部名変更）
2013年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2.　主な研究活動

a　専門分野

日本上代文学・和歌文学

b　研究課題

上代（奈良時代以前）日本文学を、韻文中心に研究している。特に『万葉集』の歌人、柿本人麻呂や、大伴家持の作品について、その読み直しを課題としている。『万葉集』の和歌は、中国の先進文明に正面から向き合って成立した日本という国家における草創期の文芸であり、漢詩文の表現に対して、学びつつ対抗するという両義的な関係を結んでいる。それゆえ、当時伝来していた六朝・初唐の漢詩文との比較・対照を主たる研究方法として、和歌独自の表現を明らかにしつつ、その価値を見出すことを論文執筆の際の、目標としている。更に『万葉集』は、7世紀前半から、8世紀中ごろまでの和歌の歴史を語る書物であると考えられ、歌人たちの積み重ねた作品群がいかなる軌跡を描くか、すなわち『万葉集』の和歌史を明らかにすることを、研究全体の目標とする。

c　概要と自己評価

2020年度は、大伴旅人の伝記をまとめる作業に追われた。2021年3月にようやく刊行できた。論文は、大伴家持に関するものと、旅人から家持へと、いうテーマであった。2021年度は、旅人・家持を中心とする論文集をまとめる作業に携わった。2021年度には、NHKで、「カルチャーラジオ」の講師を務め、啓蒙にも力を入れている。共著・共編著もそうした業績である。

d　主要業績

⑴　単著

鉄野昌弘、『大伴旅人』（人物叢書）、全280p、吉川弘文館、2021.3

⑵　共著

藤原克己、長島弘明、渡部泰明、安藤宏、鉄野昌弘、高木和子、『講義　日本文学　〈共同性〉からの視界』（p.3-36、p.155-170、ほか）、東京大学出版会、2021.3

⑶　共編著

上野誠・鉄野昌弘・村田右富実、『万葉集の基礎知識』、角川書店、2021.4

⑷　論文

鉄野昌弘、「天平勝宝八歳の難波行幸と大伴家持」、『難波宮と古代都城』、同成社、2020.6

鉄野昌弘、「『万葉集』における「望郷」と「隠逸」」、『萬葉集研究』第41集、塙書房、2021.2

3.　主な社会活動

⑴　他機関での講義等

東京女子大学非常勤講師、2020.9～2021.3、2021.9～2022.3

⑵　学会

萬葉学会　編輯委員

上代文学会　常任理事

(3) **学外組織**

大学改革支援・学位授与機構　国語・国文学部会専門委員

高岡市万葉歴史館評議員